

[研究報告]

コカイン産業とコロンビア経済

児島建彦（筑波大学大学院）

1. はじめに

麻薬の違法性は、麻薬産業がコロンビアにもたらす経済的利益を莫大なものとする。これは禁止措置を軸とする麻薬対策がコロンビアにもたらす最大のベネフィットである。しかしながら、実際に麻薬産業がコロンビアにもたらす収入はどれほどの規模なのであろうか。麻薬不正取引により得られる資金はコロンビア経済にどのような影響を与えるのであろうか。麻薬産業はコロンビアの経済発展に寄与するのであろうか。麻薬不正取引の突然の中断は、コロンビアに深刻な景気の後退をもたらすのであろうか。もしそうであるならば、麻薬不正取引の抑制は本質的にコロンビアの国益に反するものなのであろうか。こうした問いに対してより正確な解答を用意することは、コロンビアや米国の政策担当者にとって益々重要なことになっている。

麻薬産業がいわゆる麻薬生産国の経済へ与える影響については、長い間議論が行われてきたが、主に肯定的な影響を強調する場合が多かったように思われる。恒常的に外貨や資本不足に悩むラテン・アメリカ諸国にとって、麻薬産業は比較的低いコストの外貨獲得源であるとの意見は、生産国でも消費国でも頻繁に聞かれた。麻薬市場が産み出すネガティブな外部効果は主に消費国で生じるため、生産国は麻薬輸出によって得るものこそあれ失うものはないとの見解は、生産国の政府や財界によって明示的もしくは暗示的に口にされてきたし、また生産国の麻薬対策の真意について消費国の不信を煽る原因ともなってきた。

以下では、コカイン市場の規模に関する研究を概観した後に、コカイン産業の存在がコロンビア経済にいかなる影響を与えているかについての考察を行うこととする(1)。

2. コカイン市場の規模

実際の麻薬産業の規模の推計には多くの困難が伴う。麻薬取引に関する統計データは、麻薬産業の実態を正確につかむためにはあまりにも断片的かつ根拠薄弱である。麻薬産業の売上や利潤、またコロンビアの経済に与える影響の分析は多かれ少なかれ「サイエンス・フィクション」的な性格が伴う (Thoumi 1994, 183)。加えて、多くの報道機関やジャーナリストは、その職業上の必要性から、麻薬市場の規模を誇張して伝える傾向がある(2)。麻薬不正取引の脅威を声高に叫ぶ人々も、麻薬産業の規模を誇張して伝えることに関心を抱いている。こうしたジャーナリズムや政治的プロパガンダにおいて不用意に用いられる数値は、その根拠を示されことなく引用され独り歩きし、麻薬組織犯罪に関する「神話」の一端を構成するようになる。

麻薬不正取引に関する正確な統計データの欠如にもかかわらず、麻薬産業の規模をより「科学的」な方法で推計しようという試みが存在する。残念ながら経済学者によるこうした試みにおけ

る混乱もジャーナリズムの世界とほとんど異ならず、各々の学者が各々の情報源を用いて様々な方法によりはじき出した結論の間には大きな差が存在する。

麻薬市場の規模に関する推計に大きな差が生ずる理由の一つに、計算に使用されるデータが不正確かつ断片的である事実が挙げられる。コカインの生産量の計算はコカの生産量の推計から始まる。米国政府は航空写真や衛星写真を用いて、毎年各国における麻薬関連作物の栽培面積を推定しており、多くの研究者はこの米国政府のデータを最も信頼のおけるものとして利用するが、実際にはかなりの誤謬を含むものであることが指摘されている (Nadelmann 1986; Alvarez 1990; Thoumi 1994)。航空写真が直面する最大の困難の一つは、麻薬関連作物を栽培する農民がその発見を防ぐためにこらす様々な工夫である。麻薬関連作物は他の作物の陰に隠されて栽培されたり、伝統的に麻薬関連作物の栽培が確認されておらず、それゆえに当局の目の届いていない地域に移動されたりする。

仮にコカの栽培面積に関するデータが得られたとすると、次は面積当たりのコカの生産量を推定しなければならない。コカの面積当たりの収穫は地域や品種などによって異なる。米国当局は1ヘクタール当たりの生産量を、ペルー及びボリビアで1.4トン、エクアドルで1トン、コロンビアで0.8トンとしている (Nadelmann 1986, 29)。しかし、コカの生産性は同じ国の中でも地域や年、栽培状況などによって影響を受け、正確な生産量を把握するのは困難である。

コカの総生産量から合法市場向けの量、当局により摘発される量及び破棄される量を除くと、非合法市場向けのコカの量が得られる。次に必要なのはコカからコカインへの転換率を知ることである。米国のNNICC (National Narcotics Intelligence Consumer Committee) はコカ・ペースト1キロの生産に200キロのコカが、1キロのコカインの生産に25キロのペーストが必要として、500:1の転換率を用いている (Sarmiento 1990, 57)。しかしながら、実際の転換率は、精製に使用されるコカ及び化学物質の種類や質、精製技術者の腕前などにより変化する。

このように、コカインの生産量を計算する過程では現実の生産量と大きな開きが生じる可能性がある。これらの誤差は互いに相殺しあう可能性もあるが、いずれにしてもコカイン生産量の計算はかなり「どんぶり勘定」であることを心に止めておく必要がある。ある研究者は、上記のような手順を踏んで計算された生産量は実際の量の3倍から4倍に至る誤差を生じる可能性があるとしている (Nadelmann 1986)。

生産量が確定したら、次は取引額の計算を行わなければならない。そのためには、コカ、コカ・ペースト、コカイン・ペースなどの原料や中間財及びコカインの価格に関するデータが必要になる。米国政府はやはり麻薬の価格に関するデータを毎年発表しているが、当然のことながら非合法市場における財・サービスの価格に関する正確な情報を得ることは極めて困難である。加えて、非合法市場としての麻薬市場はいくつかの市場に分断されており、必ずしも統一された価格は存在しない⁽³⁾。例えば、フロリダにおける1キロのコカインの卸売価格は、カリフォルニアにおける同質のコカイン1キロの卸売価格と大きく異なることもありうるのである。

これらの限界を意識しながらも、麻薬経済の規模を明らかにしようという努力が経済学者を中

心に行われている。ネーデルマン (Nadelmann 1986) は10万トンのコカから667トンのベーストが生産され、うち600トンがコカイン・ベース工場に輸送され200トンのコカイン・ベースもしくはコカインが生産、うち150トンのコカインが輸出に向けられ、65トンが米国で輸入されるという仮定のもとに、各段階の生産物の価格を乗じて麻薬産業への従事者の総所得を計算した。彼によれば、コカ生産者は400百万ドル、ベースト生産者が533百万ドル、ベースト運搬業者が840百万ドル、コカイン・ベース及びコカイン生産者1,200百万ドル、コカイン輸出業者が1,300百万ドル、コカイン輸入業者が2,000百万ドルの所得を得るとしている。これらの所得を足した約6,300百万ドルがコカイン産業の生み出す総所得となる。単純にコロンビア人の市場への参加がコカイン精製、コカイン輸出及びコカイン輸入の80%と仮定すると、コロンビア人の総所得は3,600百万ドルとなる。

ゴメス (Gómez 1988; Gómez 1990) は、米国国務省、麻薬取締局 (Drug Enforcement Administration: DEA)、会計検査院及びN N I C Cのデータをもとにコカイン及びマリファナ産業の規模を推計している。ゴメスによれば、コカインの輸出量は81年の50トンから82年には90トンに増加するが、その後は伸び悩み88年まで60トンから90トンの間を行き来している。一方、コカインの価格は80年代を通じて急落し、キロ当たりの卸売価格は81年から88年にかけて53,000ドルから15,000ドルに低下した。コカインの供給は比較的安定していたが価格が暴落したため、輸出額は大幅に減少した。輸出額は82年の4,680百万ドルから88年には1,126.5百万ドルまで低下した。したがって、コカイン及びマリファナという2つの主要な麻薬産業の生み出す所得がGDPに占める割合も低下し、82年には9.86%に至ったものが88年には1.88%となった。これらの数値をもとにゴメスは麻薬産業のコロンビア経済に対する影響を比較的小さいものとしている。

同じく米国政府の資料等を用いてゴメスと対照的な結論を導き出したのはカルマノビッツ (Kalmanovitz 1990) である。カルマノビッツは、コカイン輸出量は70年代から漸次増加し、76年の20トンから80年には100トン、87年には200トンに達するとともにヨーロッパ市場への輸出も加わり、89年には米国向け輸出が200トン、ヨーロッパ向け輸出が50トンに達したと推計している。コカインのキロ当たりの卸売価格は70年代の70,000ドルから88年には18,000ドルに低下するが、輸出量の急増は価格の低下の影響を相殺しても余りあるものであり、コカイン輸出額は76年から89年の間に1,400百万ドルから6,900百万ドルに増加した。カルマノビッツはこの所得のうちコロンビアの取り分を80%と仮定し、80年代後半におけるコロンビア人の総所得を40億ドルから50億ドルと計算している。結果として、カルマノビッツはコカイン及びマリファナの生産・輸出はコロンビアGDPの6%から8%を占めるようになったと主張する。

ゴメスとカルマノビッツの違いはコカイン輸出量とコカインの卸売価格にある。カルマノビッツによるコカイン輸出量の数値はゴメスのものよりかなり高く、また価格もゴメスより高いデータを使用している。またゴメスはヨーロッパ市場に向けた輸出を意図的に削除している。ゴメスの示したデータは少なくとも輸出量に関しては多少の問題があると思われる。ゴメス自身も指摘しているように、彼のデータは米国消費者の需要関数に変化せずまた供給が安定しているにもかかわらずコカインの価格が急落するという矛盾を抱えている。また、サルミエント (Sarmiento

1990) が示したように、総生産量から国内消費分を差し引いた非合法市場向けのコカから生産される潜在的なコカインは80年代後半には300トンを越えており、ゴメスの統計に従えば、3分の2のコカもしくはコカインが市場に出回ることがないという考えにくい結論を導き出すことになる。一方、カルマノビッツの計算が上方への偏向をもっていることも否定できない。カルマノビッツはコカイン輸出の80%がコロンビア人の手によるものと仮定し、また投入財及び生産コストを総所得の15%とし、65%がコロンビア人密輸業者の手に残るとしているが、実際の計算には80%を用いている (Thoumi 1994, 193-94)。

トゥーミ (Thoumi 1994, 171-207) は上記の研究等で示された麻薬経済の規模に関する推計の妥当性を検討し、コロンビアの麻薬産業の収入を20億ドルから50億ドルに位置づけながらも、実際にはこの数値は麻薬産業の真の規模を過小評価している可能性があるとしている。第一にコカインやマリファナ以外の麻薬の取引によって得られる所得を無視していることで、特にヘロインの取引額はかなりのものになると考えられる。第二に、上記の研究の多くはコロンビアにおける付加価値に基づいて算出されるため、ペルー、ボリビア、米国などにおいて麻薬産業に従事するコロンビア人の所得を計算にいれていない。特に、もしコロンビア人麻薬業者が最も付加価値の高い米国市場での流通にかなりの程度浸透していればその所得は著しく高まるであろう。

コカイン市場の規模は一部の報道で伝えられるような誇張された規模ではないが、コロンビアの合法経済と比較してもかなりの規模であると結論づけられよう。しかしながら、こうした麻薬市場において生じる資金のすべてがコロンビアに還流するわけではなく、一部は海外での資産購入や投資に回される。コロンビアに還流する資金の計算は再び研究者にとって頭痛の種となる。麻薬産業のコロンビア経済への影響はこうした外貨の還流額とその形態によって大きく異なってくると予想される。

3. 麻薬産業のコロンビア経済への影響

麻薬不正取引の経済的な利益はコロンビア経済に有益なものであるとの見方は、麻薬生産国や消費国においてかなり広範な支持を得てきた。しかしながら、コカイン産業に関わる様々な現象の発展を観察すると、こうした麻薬産業の良性のみに注目する見方は近視眼的なものであったといえよう。非合法産業である麻薬産業は、短期的な外貨事情の改善や景気の刺激には貢献するかもしれないが、長期的には経済構造を歪め、健全な経済発展を阻害する可能性が高い。

第一に、麻薬企業家は麻薬不正取引により得られた外貨の一部を、何らかの形でコロンビアに還流させると考えられるが、コロンビア経済への影響はその還流の方法により異なってくる(4)。例えば、資金洗浄の最も重要な手段とされる密輸による資金還流は国内の総需要を増加させるが、政府の外貨準備に貢献しないばかりか、非合法経済を促進し政府の課税ベースを浸食する。また、密輸品は国内産品と競合し、国内産業に打撃を与えるかもしれない。麻薬資金は必ずしもコロンビア政府が望むような形で国内経済に統合されるとは限らないのである。

第二に、麻薬市場の非合法性は麻薬企業家が最も生産性の高いセクターに投資することを阻む。

麻薬企業家の資産が非合法であり、常に当局により摘発される可能性を有している事実は、麻薬企業家の投資を最も収益率の高いセクターではなく最も資産を隠しやすいセクターへ向けることになる。例えば、麻薬企業家の投資の選好は、農園や牧場等の地方の不動産購入、都市における建設、スーパーマーケットやデパート等の流通業、ホテルやディスコ等のレクリエーション産業に偏っており、製造業に対する投資は少ないといわれる。これらのセクターは様々な理由により最も資金洗浄の容易なセクターである。高額美術品、高級車や高級住宅などの奢侈品の購入も、資産の隠匿という観点から見れば効率の良い投資かもしれない。

第三に、原料であるコカや精製に使用される化学物質の大半は輸入され、最終生産品であるコカインの大部分は輸出されるため、麻薬産業は非常に弱い前方及び後方連関しか持たない。また、重量当たりの価値が高いため運送業に対する需要もほとんど生まない(5)。

第四に、雇用の創出効果に関しては、麻薬産業はコカ栽培農民、コカイン精製技術者、麻薬企業家のボディーガードや麻薬精製施設の警備員、殺し屋、弁護士、会計士、エコノミストなどに対する雇用機会を創出する。また、麻薬産業は経済危機に直面したラテン・アメリカ諸国において「安全弁」の役割を果たしたとの指摘もある。リー・3世 (Lee III 1989, 36) は、ボリビアの錫鉱山閉山やコロンビアのメデジンの繊維産業の衰退期において、麻薬産業が失業者に雇用を提供し危機を和らげる「安全弁」の役割を果たしたとする。一方で、麻薬産業は財の密輸を促進し、国内産品に対して不公正な競争をもたらす。また、ドルの流入によりペソの平価切り上げを促進し、輸出に打撃を与える。結果として国内の産業における雇用に影響がでることになる。よく引用される例として、メデジンの繊維産業が繊維製品の密輸増加により壊滅的な打撃を受けたとされる事例がある(6)。また、麻薬産業が必要とする労働力の多くは非熟練労働であることも指摘されている。麻薬産業の雇用への影響は、最悪のケースにおいては、製造業における熟練労働者を失業に追い込み、非熟練労働に対する需要を高めるということになりかねない。

第五に、所得配分効果についても、麻薬産業は低所得者層の所得水準を押し上げる機会を創出するかもしれないが、麻薬産業の中核は極めて寡占的な性格を有しており、その利益の大部分は海外への密輸ルートを所有するごく少数の企業家の手に集中する。麻薬企業家は、慈善事業などを通じて麻薬不正取引で得られた所得の「おこぼれ」を低所得者層に分配する一方で、地方では不動産を買い漁り土地所有の集中度を高めることに貢献している。80年代に麻薬企業家が購入した農地の面積は、60年代末より細々と行われてきた農地改革の成果を相殺するに足るものであるとの指摘もなされている。例えば、96年11月30日付エル・ティエンポ紙 (*El Tiempo*) は、1993年から96年の間に麻薬企業家の所有する農地は300万ヘクタールから400万ヘクタールに増加したとの、コロンビア農地改革庁長官の発言を報じている。信じ難いことに、これはコロンビアの農地の約半分にも達する面積である。麻薬産業の存在は、コロンビアにおける所得水準の絶対的な底上げを可能にするかもしれないが、多大な富を独占するごく少数の集団を生み出し、相対的な所得格差を拡大する可能性が高い。

第六に、過去の輸出産業以上に麻薬産業の景気変動は急激であり、コロンビア経済、特に地域

経済及び社会に深刻な影響をもたらす。急激な景気の変動は失業や治安の悪化をもたらし、社会不安を醸成する。95年の「カリ・カルアル」幹部の逮捕から1年後、カリ市では失業率の上昇や治安の悪化に対する不満が聞かれた。麻薬企業家やその部下による投資や消費活動が停滞したことが原因として考えられた。また、麻薬犯罪組織の衰退により失業した者は、誘拐や恐喝、強盗といった犯罪に新たな生活の糧を求め、治安の悪化を促進したとの説明がなされた。コカの栽培地でも、麻薬犯罪組織に対する取締りが強化されコカの買取り価格が下落する度に、コカ農民は債務の返済に困り土地を手放すことになった。これらの農民はコカ畑を売り払い、地主の小作人となるか、より奥地の密林を切り開き新しい農地を開拓していくしかなかった(Molano 1987)。マリファナ産業衰退後の大西洋岸地方、メデジン・カルテル解体後のメデジンにおいても、同様の社会不安の例が報告されている。

第七に、麻薬産業の存在は経済政策の担当者にとっても頭痛の種になる。公式な統計に現れないモノやカネの流れは益々大規模になり、政府の経済政策の立案及び施行において大きな障害となっている。政府が把握できないこうした非合法経済の動きは為替レートや税収などに影響を与え、時に政府の政策を骨抜きにすることもある(Thoumi 1994, 256-57)。

第八に、非合法市場の特徴である暴力と腐敗は治安の悪化や政情不安を促進し、投資に対するインセンティブを阻害する(7)。特に海外からの投資には大きな影響を与えよう。麻薬テロに象徴される極度の治安悪化は、多くの企業や個人をして資産を外国に逃避させることとなっただけでなく、新規の投資に歯止めをかけたであろう。また、94年に就任したサンパウル大統領が麻薬企業家から選挙資金を受け取ったとの疑惑は、対米関係に大きな影響を与えた。折しも、好調であったコロンビア経済が失速しつつあり、財界を中心として大統領を巻き込んだ麻薬資金スキャンダルの経済への影響が懸念されたのであった。

結論として、麻薬産業がもたらす経済的恩恵は、コロンビア経済が直面する短期的な問題を和らげることにはできるかもしれないが、長期的には経済構造の歪みを生じさせ、健全な経済発展を阻害する可能性が高い。残念ながら、コロンビア経済の麻薬産業への依存は高まりつつあり、麻薬産業の突然の中断は景気後退、失業の増加、犯罪の増加といった社会経済的コストをコロンビアに課すかもしれない。しかしながら、麻薬産業と共存する長期的なコストは短期的なベネフィットを上回ると思われる。

4. おわりに

非合法市場としての麻薬不正取引の存在は、コロンビアを初めとする麻薬生産国に大きな経済的利益をもたらす。一方で、非合法市場のルールは、そうした利益が経済発展に貢献するような形で利用されることを許さない。コロンビア政府の麻薬対策は、麻薬不正取引のもたらす利益を最大限に享受しつつ、暴力や腐敗など麻薬市場のネガティブな外部効果を最小化しようという、両立困難な2つの目的を追及するものであったといえる。しかし、長期的な視野から見れば、麻薬産業との共存はコロンビアにとって高いものにつくであろう。

【注】

- (1) コロンビアにおいては、コカインのみならず多種多様な麻薬が生産・輸出されてきた。現在も、マリファナやモルヒネ、ヘロインといったケシ系の麻薬が生産・輸出されている。こうした事実にもかかわらず、コカイン産業はコロンビア経済に最も大きな影響を与え続けており、それゆえ情報も比較的豊富である。こうした理由から、コロンビア経済と麻薬産業の関係の分析をコカイン産業に限定することにする。
- (2) 例えば、麻薬不正取引に関する古典的な著作を著したジャーナリスト、フリーマントル (1985, 204) は、麻薬はコロンビアにとって最大の外貨獲得源であり、国民総生産の約36%を占めるとしている。
- (3) 非合法市場では、取引相手が信用のおける者に限られるため、麻薬犯罪組織を核として原料の調達から小売の段階まで比較的閉鎖的な市場が並存することになる (Krauthausen and Sarmiento 1991)。
- (4) 麻薬資金のコロンビアへの還流は様々な形で行われる。密輸、コロンビアから逃避する資本の代替、輸出入額の操作、観光収入や海外への移民からの送金を装った両替等が資金洗浄の手段として用いられる。
- (5) 麻薬犯罪組織が促進する治安の悪化は警備会社や警報機、防弾車、防爆フィルムといった安全に関わる財・サービスに対する需要を高めたが、これらの財・サービスを供給する産業は非生産的なセクターであり、経済発展に対する貢献は低い。こうした産業の発展は経済発展というよりは、安全の供給という基本的な機能を国家が果たし得ず、そうした機能を「民間化」しているとも言える (Thoumi 1994, 258)。
- (6) したがって、皮肉なことに、メデジンの繊維産業を衰退に追い込んだのは麻薬産業であるが、そうした産業からはきだされる失業者を救済したのもまた麻薬産業だったということになる。
- (7) 非合法市場においては取引上のトラブルの解決や所有権の保護を保証する司法機関が存在しないため、非合法市場のアクターは私的な制裁に頼らざるを得ず、最低限の暴力装置を必要とする。また、取締当局や政府高官を脅迫・買収する必要も合法市場におけるより高い。暴力装置と当局内における内通者は、非合法産業にとっては不可欠の資本である (Krauthausen and Sarmiento 1991)。

参考文献

- Alvarez, Elena. 1992. "Coca production in Peru." In *Drug policy in the Americas*. ed. Peter Smith, chapter 5. Boulder: Westview Press.
- Gómez, Hernando J. 1988. La economía ilegal en Colombia: Tamaño, evolución e impacto económico. *Coyuntura Económica* 18, no. 3 (septiembre): 93-113.
- . 1990. El tamaño del narcotráfico y su impacto económico. *Economía Colombiana*, no. 226-227 (febrero-marzo): 8-17.
- Kalmanovitz, Salomón. 1990. La economía del narcotráfico en Colombia. *Economía Colombiana*, no. 226-227 (febrero-marzo): 18-28.
- Krauthausen, Ciro, and Luis F. Sarmiento. 1991. *Cocaína & Co.: Un mercado ilegal por dentro*. Bogotá: Tercer Mundo Editores.
- Lee III, Rensselaer W. 1989. *The white Labyrinth: Cocaine and political power*. New Brunswick: Transaction Publishers.
- Molano, Alfredo. 1987. *Selva adentro: Una historia oral de la colonización del Guaviare*. Bogotá: El Áncora Editores.
- Nadelmann, Ethan A. 1986. Latinoamérica: Economía política del comercio de cocaína. *Texto y Contexto* (Bogotá), no. 9 (septiembre-diciembre): 27-49.
- Thoumi, Francisco E. 1994. *Economía política y narcotráfico*. Bogotá: Tercer Mundo Editores.
- フリーマントル, B. (新庄哲夫訳) 1985, 「F I X : 世界麻薬コネクション」新潮社.